

北丹陸上競技協会主催等競技会
新型コロナウイルス感染症予防対策マニュアル

《2023年2月1日現在版》



北丹陸上競技協会
新型コロナウイルス感染症対策室

1. 共通事項

(1) はじめに

当協会では、感染防止に最大限の注意を払い、できる限り感染リスクを軽減させた競技会運営に務めるため、(公財)日本陸上競技連盟の「陸上競技活動再開のガイダンス」および「ロードレース再開についてのガイダンス」に沿って競技会を運営する。そのため、下記の資料に基づきこのマニュアルを作成した。

また、感染症予防対策のため競技者・関係者は、個人情報の取得・利用・提供及び大会主催者が行う感染症予防対策に同意することにより、本大会に参加することができるものとする。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">①【陸上競技活動再開のガイダンス】概要 (2020年6月11日)②【第1版改訂】日常における活動再開について (2020年6月25日)③【第4版】競技会開催について (2022年5月2日)④【第2版】競技会開催の基本情報と留意点の確認 (提出用チェックリスト) (2022年5月2日)⑤【大会前：提出用】体調管理表・症状チェック表 (2020年8月11日)⑥【大会後：自己管理用】体調管理表・症状チェック表 (2020年6月11日)⑦【第1版改訂】ロードレース開催についてのガイダンス (基本方針) (2020年8月11日)⑧【第4版】ロードレース開催についてのガイダンス (チェックリスト) (2022年10月17日) |
|---|

(2) 競技会開催にあたっての基本注意事項

- ① 「三つの密」を回避 (密閉空間・密集場所・密接場面が生じる場所を徹底的に解消する)
- ② ワクチン接種の有無にかかわらず、3つの基本的な感染症対策 (①正しいマスクの着用 (※)、②こまめな手洗い、③手指消毒設備の設置) を徹底する。

※正しいマスクの着用 (令和4年5月23日付け国の「新型コロナウイルス感染症対策の、基本的対処方針より抜粋」)

- ①屋外でも身体的距離が確保できず会話を行う場合は、マスクを着用する。

②屋内でも身体的距離が確保でき会話をほとんど行わない場合は、マスク着用の必要はない。

※炎天下の活動時におけるマスクの着用について

- ・気温 31 度以上の環境においてマスクの着用はせず「三つの密」回避、フィジカルディスタンスの確保等の感染症予防対策を徹底する。
- ・諸室等の空調の効いた密閉空間ではマスクを着用する。

③ 主催者として行うこと（主催者としての考え方、責任所在を含む）

- 1) 開催までの事前準備…感染者、濃厚接触者、感染疑い者が発生した場合の手順を定め本マニュアルにとりまとめておくとともに、「三つの密」の解消と感染者発生の場合に備え準備を行う。
- 2) 競技会に関わる全ての人（競技者・関係者・役員・観客（競技場内入場者）・メディアなど）は日頃より体調管理・検温を実施する。
- 3) 開催時の対応…フィジカルディスタンス確保を徹底して注意を促すとともに、密集場所（多くの人々が密集している）の対策として、陸上競技場諸室／招集所／スタート待機所／フィールド待機所における感染対策として、フィジカルディスタンスが確保できる使用人数で制限、滞留時間を短縮する運用、マスク着用を促すなどの対策をする。
- 4) 感染拡大防止のため、無観客での開催、又は、「フィジカルディスタンス確保」及び「大きな声での応援、集団での応援は禁止」の徹底を前提に観戦者を入場させての競技会を開催する。この場合、競技会総務の判断により実施することができるものとする。
- 5) 主催者は、競技会の競技者・関係者・役員に対して傷害保険に加入する。
- 6) 主催者は、競技会に関わるすべての人の感染に対するいかなる責任も負わない。

④ 競技会に関わる全ての人（競技者・関係者・役員・観客（競技場内入場者）・メディアなど）は以下の点に留意して日頃より体調管理・検温を実施する。

- 1) 基本的な感染防止策（マスクの着用、手洗い、「三つの密」を避けて行動すること）を徹底する。
- 2) 競技会 1 週間前から 2 週間後までは日々の検温を実施し、体調管理チェックシート（大会前）（大会後）を用いて体調管理を徹底する。（チェックシートは各チーム又は各自で保管すること。後日提出を求める場合がある）

- 3) 競技会終了後、2週間以内に発熱などの症状があった場合には最寄りの保健所、診療所等に相談後、必ず大会主催者に報告する。
- 4) 保健所による感染経路の特定作業への協力
 - ・保健所によって感染者又は濃厚接触者に該当した場合は、感染経路の特定のための必要な情報を保健所に提供する場合があるため、異常を感じた日からさかのぼり2週間前までの体温・体調・行動記録を記録しておくこと。
 - ・体調管理チェック表・行動記録（訪問場所と時間）のデータは、少なくとも1か月は各自またはチームで保管する。
- ⑤ 新型コロナウイルス感染症対策室の設置

北丹陸上競技協会の各主催競技会における感染症予防対策や、感染者、濃厚接触者、感染疑い者が発生した際の意味決定及びその対応を行うため、新型コロナウイルス感染症対策室を設置する。その構成は、会長、理事長、医事・トレーナー部長、大会総務及び大会救護（保健師、又は看護師資格を有する者を含む）とし、管内医療機関（医師）、京都府保健衛生機関とも連携する。なお、競技会開催中に発症者が特定・確認された場合は、競技会をその時点で中断・中止し、このマニュアルに基づき処置対応する。

(3) 競技会当日の流れ

- ① 陸上競技場メインスタンド（競技場フェンス内）への入場は、競技者及びチーム関係者（監督、顧問、マネージャー）、競技役員、補助員及び式典関係者に加え、入場が認められた観客とする。
- ② 各入退場口では、手指消毒液を設置する。
- ③ メインスタンドではフィジカルディスタンスを確保すること。大きな声での応援、集団での応援は禁止する。
- ④ 招集は補助グラウンド倉庫前付近で第1招集（スタートリストに○をつける）のあと現地にて2次招集をうける。トラック競技の場合は第1次召集にて腰ナンバーを受け取る。
- ⑤ 表彰は準備が整い次第、メインスタンド上（周回道路沿いスペース）にて随時行う。
- ⑥ 記録発表はWEB上で行う。プログラム及びスタンド各所に掲示するQRコードよりURLを取得できる。
- ⑦ 競技者は、マスク、タオル、衣類入れのビニール袋の持参を必須とする。
- ⑧ 常に、手指消毒、手洗い、洗顔など励行すること。熱中症にも十分注

意し、水分の持参、日陰での適度な休憩を心がけること。

<帰宅後の注意>

- ① 2週間以内は検温を実施し、発熱や体調に異常があれば下記に連絡すること

新型コロナ医療相談センター 075-414-5487

北丹陸上競技協会 高橋尚義 090-4497-5422

<競技者・競技役員への周知事項>

- ① 基本的な感染防止策（マスクの着用、手洗い、「三つの密」を避けて行動すること）を徹底し、体調不良の場合は参加を辞退してください。
- ② 各個人でマスクとハンドタオルを、また競技者は、競技出場時に脱衣した衣類入れポリ袋を持参してください。
- ③ 会場ではこまめな手洗い、手指消毒、運動後の洗顔を励行してください。
- ④ 会場では他の参加者や、スタッフとのフィジカルディスタンスを確保してください。
- ⑤ 大きな声での会話、応援はしないでください。
- ⑥ 招集、記録発表は、当日の指示やプログラム、掲示、WEBなどで確認してください。
- ⑦ 大会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は速やかに濃厚接触者の有無などを報告してください。

<競技外の対策>

- ① 写真判定室などは喚起のため常時窓や出入口を開放しておく。
- ② 大声での応援は禁止する。スタンドにおいてもフィジカルディスタンス確保を呼び掛ける。
- ③ 定期的（1時間ごと）にトイレやドアノブなどの消毒をする。機械器具等の供用を避け、共用する場合は手指、機器を消毒する
- ④ メインスタンド下大会本部前は、役員以外の通行を禁止する。
- ⑤ ごみは各自で持ち帰るよう呼び掛ける

(4) 感染者、濃厚接触者、感染疑い者が発生した際意思決定及びその対策

- ① 司令塔としての感染症対策室

競技会開催中に発症者が特定・確認された場合は、新型コロナウイルス感染症対策室により、その時点で競技会の中断・中止の意思決定を行うとともに、行政及び日本陸連、京都陸協との窓口として機能し、かつ、このマニュアルに基づき感染症対策を処置対応する司令塔となる。

- ② コロナ陽性が判明した場合の対応

症状のある場合は大会開催日の 11 日前、症状がない場合は大会開催の 9 日前の時点もしくはそれ以降に PCR 検査もしくは抗原検査で陽性反応のあった場合、当該競技者は参加を辞退するまたは、主催者による出場権利の取り消しを行う。

③ 濃厚接触者への対応

保健所から濃厚接触者と認められた場合、7 日間にわたり健康状態を観察する期間を経過し、症状が出ていない選手の出場を認めても構わない。(厚生労働省：新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針)

【大会前：提出用】体調管理チェックシート



【大会前／提出用】新型コロナウイルス感染症についての体調管理チェックシート（第2版8月11日改訂）

本チェックシートは各種大会において新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するため、参加者の健康状態を確認することを目的としています。本チェックシートに記入いただいた個人情報については、厳正なる管理のもとに保管し、健康状態の把握、未場可否の判断および必要なご連絡のためにのみ利用します。また、個人情報保護法等の法令において認められる場合を除きご本人の同意を得ずに第三者に提供いたしません。但し、大会会場にて感染症患者またはその疑いのある方が発見された場合に必要範囲で保健所等に提供することがあります。 個人情報の取得・利用・提供に同意する

※大会1週間前から記入し、大会当日、主催者の指示に従い指定の場所に提出すること

※該当しない場合は✓を入れ、該当する場合は○を記入すること（体温0.1℃単位の数字を記入）

No.	チェックリスト	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
1	のどの痛みがある													
2	咳（せき）が出る													
3	痰（たん）がでたり、からんだりする													
4	鼻水（はなみず）、鼻づまりがある ※アレルギーを除く													
5	頭が痛い													
6	体のだるさなどがある													
7	発熱の症状がある													
8	息苦しさがある													
9	味覚異常(味がしない)													
10	嗅覚異常(匂いがしない)													
11	体温	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
12	薬剤の服用(解熱剤を含む上記症状を緩和させる薬剤)													

氏名 _____

所属（学校名など） _____

連絡先（電話番号） _____

保護者氏名 _____

【大会後：自己管理用】体調管理チェックシート



【大会後／個人管理用】新型コロナウイルス感染症についての体調管理チェックシート

※大会終了後2週間は健康チェックをすること。

※該当しない場合は✓を入れ、該当する場合は○を記入すること（体温0.1℃単位の数字を記入）

No.	チェックリスト	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
1	のどの痛みがある													
2	咳（せき）が出る													
3	痰（たん）がでたり、からんだりする													
4	鼻水、鼻づまりがある ※アレルギーを除く													
5	頭が痛い													
6	体のだるさなどがある													
7	発熱の症状がある													
8	息苦しさがある													
9	味覚異常(味がしない)													
10	嗅覚異常(匂いがしない)													
11	体温	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃

※症状が4日以上続く場合は必ず最寄りの保健所、診療所等に報告してください。症状には個人差がありますので、強い症状と思う場合にはすぐに報告してください。

※保健所、診療所等に相談後、必ず大会主催者に報告してください。

(5) ロードレース開催

① 留意点

ロードレース開催地の自治体から大会開催が認められ、コースを通過する自治体に対しても大会開催の周知がされていることに留意する。

② 参加ランナー、チーム関係者、競技役員、大会役員、ボランティアなどへの感染症対策に対する各種注意事項

- ・必要に応じて大会要項・競技注意事項に記載する。
- ・大会主催者の感染予防対策について理解を促す。
- ・基礎疾患を有する方の場合、重症化するリスクが高い旨を認識した上で参加いただく。
- ・参加ランナーは競技を行っている時以外はマスクを着用する。

③ ロードレース当日

- 1) スタート会場への入場を制限するため、入口を設け、サーモグラフィーなどを設置し、大会主催者が参加ランナーや競技運営関係者などに感染疑い者がいないか確認を行う。
- 2) 感染疑い者を発見した場合は新型コロナウイルス対策室を中心に事前に定めた感染症予防対策マニュアルに基づき、慎重に対応する。
- 3) 大会主催者が定めた方法に則って体調管理表・症状チェック表などが提出されない、または適切に健康管理がされていないと大会主催者が判断した場合、当該者のロードレースへの出場を認めない。

④ 会場計画

- 1) 「三つの密」を回避、フィジカルディスタンスを確保した会場計画・ゾーニングを行う。
スタートエリアにおいてはマスク着用の徹底と会話をしない注意喚起を徹底。例えばスタート直前(1分前など)までマスクを着用、外したマスクは選手が管理(持って走るなど)する。
- 2) 参加ランナーと競技運営関係者の動線をできる限り分ける。
- 3) 密閉空間(換気の悪い密閉空間である)の対策
バス、諸室、更衣室などの換気を徹底する。
- 4) 密集場所(多くの人が密集している)の対策
バス、諸室、更衣室、招集所、スタート待機所、給水給食所、トイレなどにおいて、フィジカルディスタンスを確保する。会場内に喫煙所を設置しない。
- 5) 密接場面(互いに手を伸ばしたら届く距離での会話や発声が行われる)の対策
バス、諸室、スタート待機所、などにおいて、フィジカルディスタン

スを確保できる人数に制限する。

バス輸送手段の運営は、各業界や事業者が定めるガイドラインに準拠した運営を行う。

⑤ 競技運営

- 1) フィジカルディスタンスを確保した競技運営
定員の設定／競技役員、ボランティアの配置計画／参加ランナーの動線設計
- 2) 「三つの密」を回避した競技運営（特に密集・密接）
ウェーブスタートの推奨／15分以上同じ場所に滞留させない
※（厚接触と判断する目安「1m以内 15分以上の接触」に基づく：
国立感染症研究所：積極的疫学調査実施要領における濃厚接触者の定義変更などに関する Q&A（2020年4月22日））
- 3) 接触を極力回避した給水所の運営
使い捨て手袋などの着用／手渡しでの提供は行わない／余裕を持ったテーブル配置など
- 4) 接触を極力回避した給食（一般ランナー）
提供物は個包装のものとする／必要最低限の提供／個々で補給のゼリーなどの持ち込みを推奨
- 5) 回し飲みは認めない。
- 6) スポンジを使用する場合は、給水所におけるペットボトルと同様の提供を行う。スポンジは選手自身が指定の場所に捨てられるよう大きなゴミ箱などを準備する。
- 7) 嘔吐物は個人防護具を着用した者が対応し、消毒を行う。
アルコール 70%程度のもの、又は次亜塩素酸ナトリウム 0.05%溶液
- 8) フィニッシュ後にマスクまたは代用品を提供し着用、手指消毒を促す。
- 9) 地域における感染状況によっては、完走メダルや賞状などの記念品は当日渡さず、後日発送などの接触を極力回避した対応を行う。
- 10) 記録証やリザルトなどは印刷せず極力オンラインで発行する。
- 11) 取材や表彰式を実施する場合は「三つの密」を回避した形で実施する。人数制限／フィジカルディスタンスの確保／屋外

⑥ 医療対応

- 1) 競技会規模に合わせ、医療関係者（医師／保健師／看護師）を医務室・救護室に常駐させ、または相談ができる体制を整える。
- 2) 感染疑いがある者への対応は医療関係者へ相談、感染症予防対策マニュアルに沿って対応する。

- 3) 個人防護具を準備する。(フェイスシールド、ゴーグル、使い捨て手袋、マスク、白衣など)
 - 4) 発熱者が出た場合の隔離室または隔離できるテントを確保する。(適切な部屋が確保できない場合は、飛沫感染防止可能なカーテン、パーテーションなどで仕切ったコーナーを用意)
- ⑦トイレ(便座、ドアノブ、水洗トイレのレバーなどを清潔に保つ)
- 1) 感染症防止の張り紙を貼付するなどの工夫
 - 2) 常設トイレ: 洋式トイレではふたをした後流すことの徹底。石鹸または消毒液の常備/ハンドドライヤーの使用中止
 - 3) 仮設トイレ: 消毒液の設置
- ⑧ゴミの廃棄
- 1) 参加ランナー各自で管理するなど、極力ゴミが出ないように運営を検討する。ゴミは各自持ち帰るように事前に周知、アナウンスする。ゴミが散らからないよう大きなゴミ箱の設置場所などを検討する。
 - 2) 主催者はマスクなどのウイルスが付着している可能性のあるゴミを、使い捨て手袋、トンクなどを使用しビニール袋に入れて密閉して縛り廃棄をする。
 - 3) 飲み残しなどは公道などに流すのではなく、主催者は適切に処理する。
 - 4) 主催者は参加ランナーに衣服などは脱ぎ捨てないよう周知し、且つアナウンスする。脱ぎ捨てられた衣服などは直接触れず使い捨て手袋の着用、トンクなどを用いて回収し原則廃棄する。
- ⑨沿道の応援
- 1) 開催地の感染状況にあわせ応援について検討する。
 - 2) 沿道の中でも特に混雑が予想されるエリアの対策
フィジカルディスタンス確保、ポスター掲示、スタッフによる滞留禁止の呼びかけなど。
 - 3) 応援する場合は拍手。沿道から声援を送らない。ハイタッチ、私設エイドの禁止
- ⑩情報発信
- 1) 情報管理
 - ア 感染者、濃厚接触者、感染疑い者が発生した場合、地元行政及び保健当局と協議の上、情報発信の有無、情報発信の方法について協議をする。
 - イ 公表を行う場合、公表内容を含め日本陸連に連絡をする。
 - ウ 感染者が発生した旨を公表する場合は、積極的疫学調査により濃

厚接触者が特定できない場合など、不特定多数の人に知らせる必要がある場合とする。

エ プライバシー保護に努め個人名は公表しない。

オ 感染者本人が個人名の公表を求めた場合、匿名での公表であっても社会的責任を果たすことができる旨を伝える。

2) 病歴管理

「病歴」は「要配慮個人情報」という個人情報のなかでも極めてセンシティブな、プライバシーがより保護されるべき情報であり、必ず個人情報取得の同意、情報の管理者、保管方法、廃棄方法を明確にする。

⑪大会終了後の報告事項

- 1) 感染報告があった場合、日本陸上競技連盟(電話番号:050-1746-6100)に報告する。その際に、保健所からの指示、参加者数、競技役員数、感染者発生状況(ロードレース1週間前、当日、競技会終了後2週間)などについても報告する。

2. 競技役員用（準備行為含む）

（1）主催者ができる感染予防対策概要

- ① 競技会開催地および医療機関・保健衛生部局の協力を得る
 - 1) 対応可能な医療機関（北部医療センター）
 - 2) 丹後保健所
- ② 「三つの密」を解消する工夫を徹底する。
- ③ 多くの人が頻繁に触れる箇所を清掃・除菌し、環境を清潔に保つ。
- ④ すべての関係者に競技会開催地の新型コロナウイルス感染症に関する状況（ガイドライン）を伝える
- ⑤ 競技運営目的以外に感染症予防対策目的に個人情報を取得する旨を大会要項等に記載し同意を取得する。

（2）競技役員・補助員における感染予防対策

- ① 会場入り前（自宅）

大会1週間前から当日、及び大会後2週間分の検温及び体調管理チェックシートを作成し各チーム、各自で保管する。
- ② 会場入りから役員受付
 - ・会場入りの際、フィジカルディスタンスを確保し入場する。
 - ・「マーシャル」及び「役員係」はマスク及びフィジカルディスタンスが確保できない場合はフェイスシールドを着用する。
 - ・受付にて不確かな体調者がある場合は、その場で検温し、状況により参加を許可しない。
 - ・役員受付の際、必要のない会話は控える。また、混みあっている場合は、フィジカルディスタンスを保って待つようにする。
- ③ 役員及び補助員打ち合わせ

大会総務の判断により競技役員全体打ち合わせは行わず、主任等のみで打ち合わせを行う。この場合、全体で必要な打ち合わせ事項（確認事項）を、各主任は紙面で、各部署で現地などでの打ち合わせ時に配付する。緊急を要する打ち合わせ（確認）事項は、できるだけ放送で行う。または、総務（総務員）か主任を通じて各部署に連絡をする。
- ④ 会場準備から片づけまで
 - ・マスクを着用して、準備や片付けを行う。ただし、気温31度以上の環境においては、マスクの着用はせず「三つの密」回避、フィジカルディスタンスの確保等の感染症予防対策を徹底する。
 - ・機器、備品、用器具を触る前に手指消毒をする

- ・用器具設置後は、役員も選手も直前（事前）に手指消毒をした人のみ触れても良い。
- ※該当する部署の用器具について、該当部署に関係のない役員や補助員、選手はできるだけ触れないようにする
- ・全競技終了後、該当部署のすべての用器具の消毒を行う。また、速やかに手洗い、うがい、洗顔を行う
- ⑤ 機器、備品、用器具の管理
 - ・筆記用具（ペン類、鉛筆、消しゴム）について、消毒が難しいため役員各自が持参する。但し、1次招集場については、選手又は代理人が、選手自身の氏名を指差し、競技者係員が○印を記入する。
 - ・パソコン、ピストル、風向機器、トランシーバー、手旗、マイク、拡声器などの共用をできるだけ避ける。共用する場合は、必ず前後に手指、機器を消毒する。
 - ・写真判定室について、「三つの密」を避け、窓を開ける。判定員及びグリップ担当（機器を操作する人）が交代をする時は、機器の消毒及び、使用前後の手洗いをする。
 - ・全競技終了後、トラック競技及びフィールド競技で使ったすべての機器、備品、用器具について、消毒を行う
- ⑥ 審判任務
 - ・「三つの密」を避け、マスクを着用して任務にあたる。ただし、気温31度以上の環境においては、マスクの着用はせず「三つの密」回避、フィジカルディスタンスの確保等の感染症予防対策を徹底する。
 - ・休憩時には、手洗い・消毒・うがい・洗顔を実施する。
 - ・選手を一か所に留める時間をできるだけ短くする。
 - ・集合回数を減らす。
 - ・一次招集後、選手各自により現地に移動する。担当審判員は現地にて二次コールを行う
 - ・近距離での大声は禁止する。但し、任務内容によっては、長さ、高さ、ビブスの番号、ペグ番号の伝達があるので、周りに配慮しながら伝達をする。（マイクや拡声器を使うことが望ましい。）
 - ・写真判定室では、窓を開け、会話は最小限に控え、フィジカルディスタンスを保って、任務にあたる。
 - ・競技中とウォーミングアップ時はマスクをしなくてもよいが、待機中はマスクを着用するよう指導する。
 - ・競技中にはツバやタンを吐かないように競技開始前に注意する。
 - ・給水する場合は、紙コップにより行い、手渡ししない。

- ・競技終了後は速やかに手洗い、うがい、洗顔するよう促す。
- ⑦ 会場管理（マーシャル担当業務）
 - ・定期的（できれば1時間ごと）によく利用する場所やよく触れる場所（トイレやドアノブ、手すり、更衣室など）の消毒を行う。
- ⑧ 結果の報告
 - ・会場に掲示板等は設置しない。（「三つの密」回避のため）
 - ・結果の報告について、QRコード（インターネットアドレス）から携帯電話、スマートフォン、タブレット等でアクセスして確認できるようにする。QRコードについては、プログラム及び会場内のいくつかのポイントに張り出しておく。
- ⑨ アナウンス
 - ・通常のアナウンスでよいが、何度も普段と様式が違う競技会であることを周知するため、フィジカルディスタンスやマスク着用、大声での声援の禁止、手洗い・うがいについて、何度も緊張感を持って伝える。
- ⑩ 役員の飲食について
 - ・昼食を主催者が準備する場合、弁当など個別に分けられた食事を準備する。また、できるだけ他部署との接触を避け、フィジカルディスタンスを保って、飲食をする。
 - ・弁当がらは弁当発注先に引き取らせる。ペットボトル、その他のゴミについては、各自持ち帰る。
- ⑪ 会場を出て帰宅
 - ・帰宅後、手洗い、うがい、洗顔、消毒（できれば入浴まで）をする。
 - ・競技会后、2週間の体調管理・検温をする。発熱等、症状が4日以上続く場合は必ず最寄りの開催自治体の保健衛生部局（保健所・新型コロナ医療相談センター）に報告するとともに、大会主催者に報告する。
- ⑫ 競技会には救護を配置
 - ・救護には、保健師資格を有する審判員を少なくとも1人配置する
 - ・競技中・フィニッシュ後に倒れこんだ競技者のケアのため、救護には防護体制（マスク、フェイスシールド、使捨て手袋、ビニールカップ、アルコール消毒液、ペーパータオルなど）を配備する。

3. 競技者用

(1) 競技者ができる感染予防対策概要

- ① 「三つの密」を避けることを徹底する
- ② 個人でできる感染症対策（正しいマスク着用・手洗い・うがい・咳エチケット・体調管理など）を徹底する
- ③ 大会1週間前から当日、及び大会後2週間分の検温及び体調管理チェックシートを作成し各チーム、各自で保管する。また発熱などの症状があった場合は主催者に連絡する。

(2) 競技者における感染予防対策

① 競技

1) トラック種目

- ・一次招集後、選手各自で現地に移動し、二次コールを受ける
- ・競技終了後は、速やかに退場をする。
- ・呼吸が整い次第、マスクの着用をする。ただし、気温31度以上の環境においては、マスクの着用はせず「三つの密」回避、フィジカルディスタンスの確保等の感染症予防対策を徹底する。

2) フィールド種目

- ・1次招集後、手洗いを必ずして現地に集合する。
- ・決められた時間、公式練習を行う。
- ・「やり」および棒高跳びの「ポール」について、できる限り、各自又は自チーム所有の物の使用とするが、やむを得ない場合（所有物がなく、競技場内の物を使用するなど）は、選手自らが試技の前後に手指消毒を行う。滑り止めは共用しない。
- ・ラウンド間については、できるだけ会話を避け、フィジカルディスタンスを保ち、呼吸が整い次第、マスクを着用する。ただし、気温31度以上の環境においては、マスクの着用はせず「三つの密」回避、フィジカルディスタンスの確保等の感染症予防対策を徹底する。

② 更衣したもの

- ・その場に置いたり、他人のものと混じったりしないようにする。各自、袋を準備し、袋の中に更衣したものを入れる。忘れた場合のため、大会本部では袋を準備しておく。
- ・更衣したものの管理については、自己管理とする。

③ 競技終了後（表彰終了後）

- ・帰宅後、手洗い、うがい、洗顔、消毒（できれば入浴まで）をする。

- ・ 競技会後、2週間の体調管理・検温をお願いします。発熱等、症状が4日以上続く場合は必ず最寄りの開催自治体の衛生部局に報告し、大会主催者に報告してください。

4. 応援者(送迎者)、チーム関係者用

- (1) 応援者(送迎者)、チーム関係者ができる感染予防対策概要
- ① 「三つの密」を避けることを徹底する
フィジカルディスタンスとして間隔を空ける工夫を行う。
 - ② 個人でできる感染症対策（正しいマスク着用・手洗い・うがい・咳エチケット・体調管理など）を徹底する。
 - ③ 大会1週間前から当日、及び大会後2週間分の検温及び体調管理チェックシートを作成し各チーム、各自で保管する。また発熱などの症状があった場合は主催者に連絡する。
- (2) 応援者における感染予防対策
- ① 応援者
 - ・フィジカルディスタンスを確保すること。大きな声での応援、集団での応援は禁止する。
- (3) チーム関係者（監督及び顧問、コーチ、マネージャー）における感染予防対策
- ① 競技会中
 - ・手洗い・うがい・洗顔を行う。
 - ・声を出しての応援、集団での応援を行わない
 - ② 競技会終了後
 - ・帰宅後、手洗い、うがい、洗顔、消毒（できれば入浴まで）をする。
 - ・競技会後、2週間の体調管理・検温をする。発熱等、症状が4日以上続く場合は必ず最寄りの開催自治体の保健衛生部局に報告するとともに、大会主催者に報告をお願いします。

5. メディアの取材要領

(1) 取材の事前申請

あらかじめ大会事務局へ取材申し出を行う。

(2) メディアの履行義務事項

- ・大会1週間前から当日、及び大会後2週間分の検温及び体調管理チェックシートを作成し各自で保管する。また発熱などの症状があった場合は主催者に連絡する。
- ・取材時はマスクを着用する。
- ・競技場内では、手洗いや咳エチケットなどの実施を心がける。
- ・取材人数、取材方法、取材エリアは大会本部に確認し、遵守すること。